

横浜市立和泉小学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

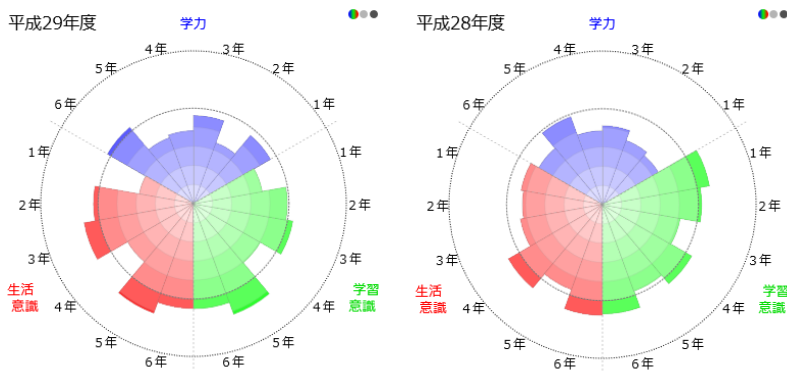
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○ 学校、家庭、地域がしっかりと手を結び、児童が安全、安心に過ごせる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習を通して、児童が学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、自己の思いを豊かに表現できる子を育てます。 ・道徳の学習や、伝統的行事に取り組み、豊かな心を育みます。 ・体育的行事に取り組みながら健康的な身体を作ります。 ・学校・家庭・地域との「つながり」を大切に、地域の中に生きる心豊かな子を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	<p>どの子ども「わかる」喜びを実感できる授業を保障し、基礎・基本の定着を図るとともに、問題解決学習を通して表現力の育成を目指していく。</p>	<p>①基礎・基本の定着を図る。 ②特別支援教室の充実を図る。 ③教材研究や研修を組織的に行い、研究・研修を通して教師の授業力向上に努める。 ④児童の特性に応じ、個々に合った教育を展開する。 ⑤どの子ども安心して学習できるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた授業を展開する。 ⑥家庭との連携を密にし、基礎・基本の定着を図る。</p>
担当	重点研推進 委員会	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

高学年は学習意識が高く、学習の大切さを意識していることがわかるが、学年によりばらつきがあるのが課題である。全体的に授業中の学習態度もよく、意欲的に学習に取り組んでいる。学力は、一つの学年を除き、どの学年も全教科が市の平均よりも低くなっており、基礎学力の定着が課題である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：6年生以外すべての学年の全観点で市平均を下回っている。書くを中心に引き続き基礎・基本の定着を目指した取り組みが大切になる。
- 算数科：1・6年生以外すべての学年のほとんどの観点で市平均を下回っている。特に知識・理解は、全学年でしまわっており、基礎基本の定着を目指した取り組みが大切である。
- 社会科：すべての学年のほとんどの観点で市平均を下回っている。特に社会的な思考・判断が低くなっている。
- 理科：他教科に比べ市平均との差は小さいが、多くの学年がほとんどの観点で平均を下回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習意識は、高い状態が続いている。現5年生が入学時より学力、学習意識とも市の平均を下回っており、引き続き、自己肯定感を高めていくことができるよう、細やかな指導をしていく必要がある。6年以外の学年は学力が市平均を下回る状況が続いているので、基礎・基本の定着に引き続き力を入れていくことが大切であると考えます。

3 平成31年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 基礎・基本を身につけるために、繰り返し学習の時間を確保し、全体で取り組む。
- 個々のよさに目を向け授業に取り入れるなど、授業展開を工夫し、学ぶ楽しさを感じることができるようにする。
- できるよろこびを味あわせることや、認め合う活動を行うことで、学びの習慣に結びつけていく。

2 学年

- 基礎・基本の定着をすることの大切さを伝えながら、繰り返し学習する時間を確保する。
- 一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めることで学習に前向きに取り組めるようにする。
- 具体物を使ったり、活動を取り入れたりするなど、学習への意欲を引き出せるようにする。
- できる喜びを味あわせることや、認め合う活動を行うことで、学びの習慣に結びつけていく。

3 学年

- めあてをもって活動することを習慣化させる。
- 振り返りや繰り返し練習をする時間を十分にとるようにして基礎・基本の定着を図る。
- 具体物の活用や体験・活動を通して学習への意欲を引き出す。
- 地域の材を生かし、実感の伴う学習ができるようにする。
- 様々な学び方を通して、思考力や表現力を育てる。

4 学年

- 「目標設定」→「活動」→「振り返り」のサイクルを児童が活動できるように計画を立てる。
- 話し合う機会を計画的に設定することで言語活動の充実を図り、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 個に応じた支援・指導を行い、言語や計算などの基礎基本の定着を図る。
- 教師間で、共通理解を図り、チームで指導していく。

5 学年

- 算数 TT による個に応じた指導・支援が行えるようにする。
- 児童の発表機会を増やし、言語活動の充実を図ることで、考えを深められるようにする。
- めあてを設定し、見通しをもった学習を行う。活動後にはめあての振り返りを行い、達成感を感じられるようにする。
- ペア学習・グループ学習を取り入れ、学び合いが充実するようにする。
- 朝学習の時間に算数・国語の計算プリント、漢字ドリルなどの反復学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。

6 学年

- 自分の興味・関心や課題を見つけ、深めたり解決したりする能力を育むため、自学ノートに取り組む。
- 専科および学年間の連絡を密にし、児童の見取りを充実させ、授業に生かす。
- 学習計画をたて、見通しをもった学習を行う。また、時間ごとにめあてのふりかえりを行い、達成感を感じられるようにする。

個別支援学級

- 児童の実態に応じた指導が徹底できるよう、担任で共通理解を図り、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行う。
- 児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、持てる力を高め、学習・生活上の適切な指導を行う。
- 落ち着いて学習が進められる空間づくりをし、学習環境やワークシステムの構造化を図る。
- 個別で繰り返しの学習を行うとともに、家庭との連携を深め、より定着が進むよう支援する。